

第三十一回「前田純孝賞」学生短歌コンクール 入賞作品

《中高校生の部》

【前田純孝賞】

夜に咲く線香花火の輝きが夏の余白を静かにうめる

東京電機大学中学校

二年 松下 くるみ

透明な霜をふたりで踏み抜いて静かな音がきみの言葉だ

加藤学園暁秀高等学校

二年 蜂屋 裕大

【選評】

短歌は三十一音で心の奥にある気持ちや風景を伝える表現です。

前田純孝は、自然や日常の一瞬を見つめ、それを静かに深い作品にしました。

前田純孝賞に選んだ二首も、そうしたまなざしを持った作品です。どちらも、やさしい言葉の中に、豊かな感情とイメージがこめられており、短歌という小さな形の中に、自分の感じた深く静かな世界をたたえている作品です。

夜に咲く線香花火の輝きが夏の余白を静かにうめる

線香花火の光を、ほんのわずかな時間に咲くひとつの命のようにとらえた歌です。

「夏の余白」という表現がとても印象的で、季節の終わりにぼっかりと空いた静けさや、名残惜しさが感じられます。その余白を「静かにうめる」としたところに、火花の儚さと心の静けさが重なります。

線香花火という小さな存在が、夜という大きな時間や空間をそっと照らしていく。その想像力と感性の確かさが光る一首です。

透明な霜をふたりで踏み抜いて静かな音がきみの言葉だ

霜を踏む音に「きみの言葉」を重ねた作品。

「踏み抜いて」という語が、霜の張りつめた空気を壊す一瞬の緊張と、その後を訪れる静けさをよく表しています。言葉を交わさずとも、ふたりで同じ音を聴いたことが、心のつながりを生んでいる。そんな沈黙の中の会話を感じさせます。見えない感情のやりとりを、音と空位の変化を通して描いた、とても成熟した感受性の歌です。

【選者 佐佐木頼綱】

【準前田純孝賞】

決勝戦おうえん席から見る兄はいつもちがって大きく遠い

愛知教育大学附属名古屋中学校

二年 松岡 よつ葉

君に貸した数学ノートの端っこに下手くそなドラえもんそれだけのこと

関西大学第一中学校

三年 松本 実桜

googleのあとがとれず下校する笑う仲間と夏は続けり

大阪府立夕陽丘高等学校

二年 中垣 照

さようならまたねと言った後に知る本物の君の歩く速度を

兵庫県立西宮香風高等学校

一年 東 青空

【選者賞】

静かさの静かな音が突き刺さる私の音はドのシャープから

静岡学園中学校

二年 清水 ゆい

どのへんが花にうもれる角度かな何度もためす剣山隠し

博多女子中学校

二年 尤 梓晰

温室の扉開ければ朝日射す水やりの音今日の始まり

長野県上伊那農業高等学校

三年 高橋 輝

大人への階段一段飛ばしして捻挫しているような毎日

宮城県立古川黎明高等学校

一年 鹿野田 善頌

汗ぬぐうエアコンきかぬ作法室熱き日差しに熱すぎる抹茶

大阪府立市岡高等学校

一年 野口 花帆

【新温泉町長賞】

夕焼けの伸びる私と影の距離笑う君にはまだ届かない

関西大学第一中学校

一年 中村 こころ

試合後の静かな風は悔し思いで大きな風は大きな思い

鹿児島県長島町立鷹巣中学校

一年 石元 一也

傘さして友と歩いた帰り道雨音だけがふたりをつなぐ

大阪教育大学附属平野中学校

三年 吉本 陽葵

友だちとかみをまきまきうれしくて気になるアイツに見てもらいたい

大分県大分市立坂ノ市中学校

二年 前田 安珠

夏の陽を窓にうつして走りゆく H C 85系飛騨路を抜ける

東京電機大学中学校

二年 小林 溪人

ビニールの傘ごしに見る花びらが魚みたいに春を流れる

常総学院高等学校

二年 染谷 真由

聴けぬ声弱る母親見届ける最期の言葉言えないなあ

大阪府立泉北高等学校

三年 吉松 奏太

「じゃあね」って言ってからまた笑いだす話したりない夕焼けのあと

クラーク記念国際高等学校姫路キャンパス 二年 橋爪 琳咲

「さよなら」を「小夜なら」と書くばあちゃんの年賀状には墨汁の跡

神奈川県立光陵高等学校 一年 大西 真央

団幕の端でふざけて手にペンキ体操服に青が残って

大阪府立夕陽丘高等学校

二年 平田 怜愛

【新温泉教育長賞】

窓の外誰も通らぬ昼下がり私を忘れた夏が続いて

東京電機大学中学校

二年 小南 那月

夏の夜煌めく星に手を伸ばす夏の銀河には届かぬ腕

東京都武蔵野市立第一中学校

二年 伊東 望乃彩

ふでをもちあの日の色を思い出すなにかたりないあの色はどこ

大分県大分市立坂ノ市中学校

二年 三坂 理乃

久々に引っぱり出した冬服にかすかに香る去年の思い出

同志社中学校

二年 吉村 美華

学校の緑のユニ着て越えるのはあのバーよりも昨日の自分

静岡学園中学校

二年 谷津 暦

若者は推しを作ると聞いたから今日はすみれを推してるばあちゃん

神奈川県立光陵高等学校

一年 石井 桃衣

友達と笑い合ってもふとひとり影踏むような放課後の道

早稲田大学高等学院

一年 板橋 寛彰

おはようと手を振っていたあの友も制服ちがい声かけそびれ

大阪府立寝屋川高等学校

一年 川口 紗奈

新しい制服の襟直しつつ知らない教室ドアを押してく

大阪府立寝屋川高等学校

一年 石倉 咲樹

今この時何かあるようで何もない強いて言うなら少し眠たい

クラーク記念国際高等学校姫路キャンパス

二年 鈴木 志信

【神戸新聞社賞】

ノートにはすみっこだけがカラフルで大事なところは白いまんまだ

大阪教育大学附属平野中学校

二年 横山 風汰

窓ガラスくもって見えた世界にはほんとの私まだ残ってる

大阪教育大学附属平野中学校

三年 藤野 葵

凍る窓指でえがいた君の名は中々消えず夜がふけてく

関西大学第一中学校

一年 吉川 陽真

校庭でラグビーボール打ち上がるどこかを空と呼べるのだろうか

関西大学第一中学校

三年

小川 蒼太

スマホから風が吹き出す 10 年後あなたの声は笛に変わって

兵庫県南あわじ市立三原中学校

二年

長谷 明日翔

またおいで元気で居てねまた来るねそれが祖父との最後の会話

クラーク記念国際高等学校姫路キャンパス

三年

村井 優月

震えた手母の手術と後遺症ペンも持てない冬のせいかな

大阪府立泉北高等学校

二年

谷口 愛里菜

じいちゃんの遺体といっしょに灰になるひらがなだけのピンクの手紙

神奈川県立光陵高等学校

一年

小林 央奈

手を離す瞬間までもぬくもりが僕の掌でまだ息をする

兵庫県立小野工業高等学校

二年

高橋 大和

ふざけ合い誰かが笑う声のなかひとり泣きたいやつもいるかな

大阪府立寝屋川高等学校

一年

寺嶋 律花

【佳作】

何気なく好きだと言ったおつけものあれからずっと弁当レギュラー

大阪府立夕陽丘高等学校

一年

宮本 郁

イヤホンの片方わけて歩く道同じ歌でも違う景色だ

大阪府立夕陽丘高等学校

一年

渡野 萌伽

名前呼ぶ声の途中で風が吹き届かぬままに夏が終わった

大阪府立夕陽丘高等学校

一年

福田 萌衣

カーテンの隙間から差す光だけそれだけでいい休みの朝は

大阪府立寝屋川高等学校

一年

西村 信音

蝉時雨君と歩いた帰り道この季節ごと閉じ込めたいな

大阪府立寝屋川高等学校

一年

高崎 栞織

夕焼けが街の奥へと隠れゆき今日一日を静かに終える

大阪府立寝屋川高等学校

一年

松本 紋芽

陽だまりを濾す街路樹の影の下赤い自転車の君を待ってる

大阪府立寝屋川高等学校

一年

金 慧

人見知り同じクラスに同じ方向ずらして乗る準急電車

大阪府立寝屋川高等学校

一年 久下 杏佑

諦観を言い訳にして逃げる癖自分が好きで自分が嫌い

大阪教育大学附属平野中学校

三年 村井 夏穂

拍手まだ止まらぬ舞台のその端でマウスピース越しの「ありがとう」

大阪教育大学附属平野中学校

三年 小林 零

目を閉じて傘にひとつの音が咲く誰にも言えぬ心のしずく

大阪教育大学附属平野中学校

三年 永吉 珠央

静止するはずの舞台が笑ってる息整えて踏み出す一步

大阪教育大学附属平野中学校

三年 原田 莉実

夏祭り指先触れたその時に金魚すくいも忘れてしまう

大阪教育大学附属平野中学校

三年 新田 隼也

図書館でめくるページ静かな音知らない世界少しのぞいた

福岡県福岡市立高取中学校

二年 坂本 悠真

波しぶき裸足で駆ける白き浜笑い声だけ空に溶けてく

東京電機大学中学校

二年 三宅 巧真

何気ない「また月曜日」に誘われてオウムのように「また月曜日」

関西大学第一中学校

三年

安東 祐徳

固いまま解けぬ空気の間隙より小さな「ごめん」そっと差し出す

関西大学第一中学校

一年

芝 茉釉子

つりかわをつかめることができた春心の階段一段登る

関西大学第一中学校

一年

辻本 凌介

中学生六年生の六を消す六より大きな一を背負って

関西大学第一中学校

一年

高橋 海青

放課後の机に残るあたたかさ君がいたことそっと確かめる

兵庫県立小野工業高等学校

一年

平 康士朗

帰り道自転車二人並んでたあの夕焼けは今もまぶしい

兵庫県立小野工業高等学校

二年

竹之下 大翔

あの夏のあなたの背中きざまれて私は前に進めずにいる

兵庫県立小野工業高等学校

三年

助友 玲音

下校して部屋に入ったすすしさはプパッと弾けるシャボン玉のよう

大分県大分市立坂ノ市中学校

二年

徳丸 呉葉

未提出ノートを閉じる午後六時揺れるカーテン斜陽さす窓辺

大阪府立泉北高等学校

二年 松宮 遙大

名前ほどサイエンスしてないけどそれでもここが私の居場所

大阪府立泉北高等学校

二年 井上 愛唯

散歩道母と私の頬撫でる秋風運ぶは野焼きの香り

大阪府立泉北高等学校

三年 荒田 捺子

ちよっぴりと厚手のニット着込んだらなんかいつもよりセブンティーン

大阪府立泉北高等学校

二年 山村 雷輝

いたすぎて涙が出てきてうずくまる目に飛んできたみかんの果汁

同志社中学校

二年 堀江 悠斗

白球が打たれた瞬間絶望感目に焼きつけるキャッチャーの視点

同志社中学校

二年 永田 理人

好きな人一週間も夢に出る私の事が好きなのかもね

兵庫県三田市立八景中学校

二年 小谷 実咲

おびえつつふみ出す一歩小さい歩幅今では私の大きな勇気

クラーク記念国際高等学校姫路キャンパス

一年 三村 涼太

車内での小さく流れる音楽はやすらぐための父の優しさ

クラーク記念国際高等学校姫路キャンパス

二年 水谷 結衣

締切が迫るキャンパス乾かずに夏の光と睨み合いする

兵庫県相生市立双葉中学校

二年 牛堂 楓

テスト後に友と歩いた帰り道空の蒼さは自由をくれた

兵庫県宝塚市立安倉中学校

二年 中田 咲良

打ち返す音のリズムに鼓動乗り相手も自分もただひとつなる

大阪府立市岡高等学校

二年 今中 幸祐

スタートの合図待てば鼓動のみ張りつめし夏風も息をのむ

大阪府立市岡高等学校

一年 森 駿介

放課後に声がかかるほど叫び合い終わればただの青空ひとつ

大阪府立市岡高等学校

一年 前田 逸稀

車窓には白みはじめる藍の色となりで揺られ英単語帳

兵庫県西宮市立西宮東高等学校

二年 土井 柚子稀

解散を知らせる文字がにじんでく終わらせないで私の青春

兵庫県西宮市立西宮東高等学校

二年 山下 蒼空

祖母からの L I N E はいつも「がんばてね」足りない文字に愛を受けとる

兵庫県西宮市立西宮東高等学校

二年 大宅 凜奈

立ち止まりふうと短く白い息夜明け前に胸の火を抱く

大阪府立夕陽丘高等学校

二年 岡田 陽也

六限のチャイム鳴り終え駆け出せば笑顔弾ける部活の始まり

大阪府立夕陽丘高等学校

二年 林田 悠太郎

窓際で眠気とたたかう春の午後ノートの隅に風がゆれてる

大阪府立夕陽丘高等学校

二年 上川 偉央

部活後のつかれた体にしみてくる自販のあついコーンスープ

大阪府立夕陽丘高等学校

二年 宮崎 佑果

黒板の文字が少し光ってる誰かの笑いまだ残ってる

大阪府立夕陽丘高等学校

二年 中野 莉禪

春風に自転車こいで坂のぼるとなりの君はなぜかまぶしい

福岡大学附属大濠高等学校

二年 井野 健志郎

落ち葉踏み帰り道には陽が落ちて語らう声に風がまじわる

福岡大学附属大濠高等学校

二年 菊谷 創

松葉杖恐怖の段差赤ん坊一步踏み出す生きた経験

東京都豊島区立西池袋中学校

二年 宇佐見 怜花

こっそりねあいすを食べた夏の夜気分爽快スパイの気分

東京都武蔵野市立第一中学校

二年 高■ 俐多

夏の夜星空見上げ君と見た胸に焼き付く打ち上げ花火

東京都武蔵野市立第一中学校

二年 北野 結衣

白紙からはじまる夏の数式をひとつ解くたび夜がひらける

早稲田大学高等学院

一年 檜原 啓太

上を見て空に満月ひとりきり君の住む街同じ月かな

早稲田大学高等学院

一年 鶴田 悠貴

自転車で坂をくだれば風ひかる夏の匂いが背中に残る

早稲田大学高等学院

一年 野口 一樹

隠すたびうまく笑えるようになり君のそばでも嘘が増えてく

早稲田大学高等学院

一年 富山 哲太

春雨に傘をわけあう肩の距離言葉ひとつが遠くて近い

大阪府立枚方津田高等学校

三年 吉本 海利

水曜は歩きで登校そうすれば話す時間がちよつと伸びるの

兵庫県立篠山鳳鳴高等学校

三年 首藤 美颯

オレンジに染まる稲穂の通学路肌寒い風実りのかおり

兵庫県新温泉町立浜坂中学校

一年 森上 天登

新学期変わる景色と聞こえる声私の心は炭酸水

兵庫県新温泉町立浜坂中学校

二年 谷田 和花

雨粒と薄い青に映る虹色がビニール傘に透けて見ゆ

静岡学園中学校

二年 森木 初音

うすべにの君からつづくイヤホンの終着駅はぼくの右耳

静岡学園中学校

二年 谷 真柚子

タコご飯待ちに待ってた夕飯はわすれられない夏の思い出

大阪府大阪市立我孫子南中学校

二年 亀井 紗英

久しぶり雨の世界をかさごしに流れる水を少し見つめて

兵庫県立錦城高等学校

一年 白井 麗乃

君のこと見てるふりして空を見るほんとはこっち向いてほしいの

鹿児島県長島町立鷹巣中学校

三年 海江田 桃花

放課後の静けさのなか笑い合うこんな時間が続けばいいな

常総学院高等学校

二年

増田 紗月

バスの窓息吹きかけて曇らせるみえる景色は水彩画のよう

岐阜県川辺町立川辺中学校

三年

土屋 奈々

すれ違う廊下の風が甘くなる名前を呼べず季節が過ぎる

宮崎県立宮崎北高等学校

二年

原田 優衣

笑うたび声が重なるその瞬間世界の色が少し明るい

静岡県立沼津城北高等学校

二年

杉本 紫音

正門を一人でくぐった十五歳気づけばあなたとくぐる十八歳

大阪府立東住吉総合高等学校

三年

有働 さとり

スマホには未読のままの言葉あり勇気のあとがただ光ってる

愛知教育大学附属名古屋中学校

二年

水野 耀

この仲間で来れたからだねこんなにもこの海のこと大好きなのは

博多女子中学校

二年

横山 桜子

ぬかるみに足を取られて手を伸ばす体振らせイネ守りぬく

長野県上伊那農業高等学校

三年

村田 彩季

手袋しハクサイ収穫したあとの手はバラ色の氷のようだ

長野県上伊那農業高等学校

三年

石川 寧桜

八月のネギの土寄せ実習で大きくなれと畝高くする

長野県上伊那農業高等学校

三年

伊藤 心奈

紫雲海巨峰の摘粒丁寧に両ひざ折って房を見上げる

長野県上伊那農業高等学校

三年

後藤 貴光

小さな紙に色んな絵の具で重ね塗り絵の具の層は記憶の地層

鹿児島県立曾於高等学校

三年

中山 翔太郎

おりゃや！ドサツ大声ひびく冬の外みんなでにぎ合う雪合戦

兵庫県宍粟市立山崎西中学校

二年

藤原 咲栄

だれもまだ気づいていないスペースへひとり抜け出す風になる脚

愛知県立名古屋聾学校

二年

西田 波琉

初めての恋に終わりを告げられて「彼女できた」に返信できず

愛知県立名古屋聾学校

三年

鵜飼 菜々子

春過ぎて季節外れの秋桜紫色に一輪咲いた

兵庫県神戸市立雲雀丘中学校

二年

前北 俊通

ハンバーガーかじってふいに見上げたら「かわいいなあ」って君が笑った

兵庫県立伊丹北高等学校

三年 杉若 亜海

リスカとは「リスクをカット」の略だから君の悩みも切らせて欲しい

神奈川県立光陵高等学校

一年 松尾 綾音

肺胞に嘘が沈殿してるから息を吐くには目障りな星

神奈川県立光陵高等学校

一年 山田 万葉

おはようを言えない距離の毎日が表題のない劇になってく

神奈川県立光陵高等学校

二年 太田 実来

海の中悠々泳ぐ魚たちこのまま溶けて海になりたい

兵庫県立須磨友が丘高等学校

二年 中野 梨恩

放課後に笑い声まだ残る道部活の汗と夕日のにおい

福島県立白河実業高等学校

三年 梅宮 一之輔

髪結び気持ち引き締め深呼吸先輩と最後のコンクールへと

兵庫県立芦屋高等学校

二年 射場 美空

「よし行こう」菜の花の道かきわけてぐんぐん進む赤白ぼうし

神村学園中等部

一年 橋口 心海

爆風に耐えて残った柱時計今も止まった十一時二分

梶山女学園高等学校

二年 石崎 杏奈

犬も私も夕日に染まりひとつ影あの抜け道はもう通れない

星陵高等学校

二年 芹澤 優花

タタタタツ空へ向かって高くとぶ自己ベストこえテンションあがる

山口県周防大島町立周防大島中学校

二年 吉村 明咲

ダダダダと今日も走るぜいつまでもだれも止めれぬおれのスピード

滋賀県守山市立守山中学校

二年 西堀 柊佑

暗闇でペンライトの海揺れながらステージ照らす一つの光

大東文化大学第一高等学校

三年 谷村 瑠斗

「オンユアマーク」大声援をかき消して握るバトンに鼓動が伝う

兵庫県新温泉町立夢が丘中学校

二年 朝野 良輝

鹿の声遠き山より響く夜私の部屋は野にとけてゆく

兵庫県新温泉町立夢が丘中学校

二年 谷村 一護

登校路冬の匂いが染みてゆくこの匂いにも終わりがくるね

東京都立赤羽北桜高等学校

三年 大浦 夕奈

球を追ひ初めて勝った帰り道自分の影が大きく見えた

青稜高等学校

二年 太田 然

寒い中目に映り込む雪景色今夜は鍋だ家に帰ろう

香里ヌヴェール学院高等学校

一年 白濱 咲希

迎え盆去った歳月ばあちゃんの近づく顔と畳みの香り

大口明光学園高等学校

三年 竹内 彩人

民泊で大田さんちにおじゃましたみんな大好きいちやりばちよーでー

兵庫県立猪名川高等学校

二年 松浦 菜花

スタブロに着くと目の前ハードルが今日も私は十台を飛ぶ

大分県竹田市立直入中学校

三年 馬場 香羽

花見つめ微笑む君の居る場所が明日もずっと晴れますように

宮古島市立伊良部島中学校

二年 仲間 妃菜

「君の夢よ叶えと願う」手を上にみんなで伸ばして手話でも歌うよ

愛知県名古屋市長千鳥丘中学校

三年 武田 颯斗

君からの返事を待って三時間電波のせいか私のせいか

広島県呉市立阿賀中学校

二年 澤田 小春

消しゴムのかすだけ残る机の上かすの多さは夢の大きさ

兵庫県神戸市立須磨翔風高等学校

一年

坂根 陸斗

黒板に残るチョークの白い線消せないままで放課後の風

兵庫県神戸市立須磨翔風高等学校

一年

竹内 結花

図書館の古いカードに残ってるへたくそな字は確かにわたし

日本大学第二高等学校

二年

高岡 奈央

離れても心はいつもそばにある同じ空を見上げているから

熊本インターナショナルスクール

二年

本田 蒼

校舎より明かりこぼれる二二時こつこつ響くペンの音かな

徳島県立脇町高等学校

二年

坂本 梓

少しだけ癖のある字を書くのだとデジタル時代の手紙にて知る

N高等学校

三年

火口山 ちひろ

青春の自分探しの旅の中君もジェーン・ドウ？私もジェーン・ドウ

神奈川県横浜市立南高等学校

三年

香川 陽菜

体育祭の終わった後のグラウンド赤とんぼたちの祭の始まる

山口大学教育学部附属光義務教育学校

九年

横道 玄

てのひらに冬の青空をつかまえた君からもらった手鏡の中

咲くやこの花中学校

二年

森田 智

もしだけど天動説がほんとなら地球の端に腰をかけたい

東京都聖学院高校

一年

志賀 創

親友がカレシと一緒に帰った日バニラアイスが苦く感じた

世田谷総合高等学校

一年

川崎 春香

「する、？」より「しよー！」と言える人が好き例えば学級長の君とか

岡山県立岡山朝日高等学校

二年

高祖 桃香

金曜日君が髪型褒めたから今日もポニテを高くしてみる

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

四年

小野 朱莉